

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	-1	-2	-3	令和8年度の目標	-7	-7	-2	-5	0	0	0	2
令和7年度の結果	-1	-5	-6	令和7年度の結果	-12.3	-9	-3.7	-9.4	-0.5	-0.8	-0.7	1.6
令和6年度の結果	-1	0	-1	令和6年度の結果	-5.6	-9.3	-1.2	0.4	-0.3	2.1	0.5	2.5
令和5年度の結果	-3	-6	-9	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度 目標		令和8年度 目標達成に向けた取組	
内容							
学校全体	<p>【成果】第6学年の算数においては、全国学力調査を受けて算数少人数指導の3展開授業において能力別に合わせた指導方法の改善（ワークシートの活用や応用問題に取り組ませる等）によりC層の児童がB層に上がる様子が見られた。</p> <p>【課題】6学年算数以外のポイントを落としてしまったことで、校内全体で基礎的・基本的な知識及び技能の定着が課題であると考えられる。共通した指導方針の確認不足・徹底不足が見受けられた。</p>			<p>○既習漢字の読み書きについて全学年8割以上の児童が8割の習得ができるようにする。</p> <p>○自分の考えを話したり書いたりして伝えることができるようにする。</p> <p>○算数科において基礎学力の見直しと習得を確実にする。</p>		<p>○朝学習や業間学習の時間を活用し、市販の漢字ドリル教材やミニテストなどに目標点を達成するまで繰り返し実施する。</p> <p>○各学年の発達段階に応じた多様な学習（高学年では自主学習やYOMUよむワークシートなども）を通して、表現方法を知り、自分で選択しながら取り組めるようにする。</p> <p>○朝学習や業間学習、授業の中で継続してプリントやドリル学習を実施する。</p>	
第1学年	<p>【成果】集中して学習に取り組み、9割程度の児童は1年生の基礎的・基本的な学習内容の知識の習得ができた。意欲をもって主体的に学ぶ姿勢が身に付いている。</p> <p>【課題】学力の定着に差が見られ、1割程度の児童は基礎的・基本的な内容が充分ではなく、学力の二極化が生じてしまっている。基本的な知識の活用をするまでには至らず、応用力や思考力についても経験が積まなかった。</p>			<p>○字の形をとらえて正しく書けるようにする。</p> <p>○生活の中で必要な知識技能（時刻の読み方等）を全児童が習得できるようにする。</p> <p>○算数科で繰り上がり繰り下がりを全児童が確実に習得できるようにする。</p> <p>○どの教科においても、自分の考えをもてるような機会を設定し、伝えることができるようにする。</p>		<p>○丁寧に正しく書けるまで繰り返しの指導を徹底する。</p> <p>○日常的に学級で時刻を読ませたり、数を数えさせたりするなど学習と結びつけた声掛けや指導をしていく。</p> <p>○授業時間に指導したことを忘れないように、朝学習や業間学習、家庭学習などで繰り返しの課題を提示し、取り組みを指導する。</p>	
第2学年	<p>【成果】特に算数において九九の学習に時間を費やし、朝学習や業間学習の時間を活用して繰り返し取り組みさせ9割の児童が習得することができた。</p> <p>【課題】算数も国語も、知識や技能は7割程度の児童は概ね身に付けることができたが、語彙力が少なかったり、言葉の理解が乏しかったりする2・3割の児童の表現力や文章理解が十分に行き届かなかった。</p>			<p>○全員が九九の暗唱が1分でできるようにする。</p> <p>○新出漢字を9割以上読み書きできるようにする。</p> <p>○どの教科においても自分の考えを伝えることができるようにする。</p>		<p>○算数の授業時にとどまらず、朝の会や帰りの会、家庭学習などを通じて暗唱する機会を増やしていく。</p> <p>○教室の外や中に新出漢字を掲示し、読んだり書いたりしてから教室に入室するなど漢字に触れる機会を増やしていくようにする。</p> <p>○少人数での話し合い活動やそこの話し合いを学級全体に伝える活動など、毎時間の学習活動に伝える活動を設定する。</p>	
第3学年	<p>【成果】A・B層を下げるなど安定した指導が継続できた。どの単元においても、算数少人数との連携のもとで適切な適用問題を選択したり、ワークシートの活用をしたりして基礎基本を崩さないように実践した。</p> <p>【課題】C・D層の割合が7割にのぼり、基礎基本の徹底にこれまで以上の時間を割く必要があることが分かった。少人数指導において、帯の時間として基礎基本の定着のためのドリル学習等理解度を明確に知り、改善に向けた取り組みを実践する必要があった。</p>			<p>○新出漢字の読み書きについて9割の児童が8割以上習得できるようにする。</p> <p>○算数科において、既習である九九を確実に身に付けさせ応用できるようにする。</p> <p>○語彙力や表現力を高めていくようにする。</p>		<p>○国語の授業での新出漢字の確認と朝学習や業間学習の時間において、繰り返し同じ文字に取り組むなどの時間を設定する。</p> <p>○算数の時間で帯学習として百マス計算等に取り組ませる。</p> <p>○どの教科においても言葉の理解が不十分に感じた時には立ちどまり、全児童が理解できるように指導を徹底する。</p>	
第4学年	<p>【成果】学年の後半では基礎学力をつけていく時間を多く確保し、継続的に取り組ませたことで毎時間の学習内容の理解度を高めることができた。</p> <p>【課題】既習事項の積み重ねが不足しており、学習している単元が終了すると忘れてしまっている状態になってしまった。既習事項を意識的に生かせる内容の単元構成や応用問題への取り組みを増やしていく必要があった。</p>			<p>○2・3桁の掛け算や割り算について8割の児童が自力解決できるようにする。</p> <p>○分度器やコンパス、三角定規等を活用した技能面の習得を8割の児童が徹底できるようにする。</p> <p>○新出漢字を8割の児童が8割以上習得できるようにする。</p>		<p>○家庭学習でのドリル学習とプリント学習、ドリルパーク等で理解度の低い課題を提示し、何度も取り組ませる。</p> <p>○漢字の習得について、ミニテストやドリルを1ページずつテストにするなどこまめに習得状況を確認し、9割の児童が確実に習得できるように取り組ませる。</p> <p>○自主学習において自分の苦手を学習に取り組めるように助言をする。</p>	
第5学年	<p>【成果】A層とB層の差があることから、B層を下げないように基礎基本の充実を意識してきた。結果を見ると、B層の割合は教員側の認識とあまりかわっていないことからA・B層については安定した指導をしていくことができた。</p> <p>【課題】C・D層の基礎基本の積み重ねがまだ足りてない。児童による習熟度の差が見られ、定着が難しい児童への指導方法の改善が必要であった。</p>			<p>○適切な文言を活用して文章を作ったり話せたりするようにする。</p> <p>○特に国語科において既習の漢字を使って丁寧に文章を書くようにする。</p> <p>○算数科において4年までの既習事項の積み重ねを日常的に継続して実施する。</p>		<p>○各教科や自主学習を通じて自分の思いや考えを書く活動を設定し、それぞれの能力に応じて文章を正しく書くことができるように指導・助言を継続する。</p> <p>○朝学習や業間学習の時間に、4年生までの理解度の低い単元や内容について精選し、プリントやドリルパークなどの課題に取り組ませる。</p>	
第6学年	<p>【成果】D層の底上げのために昨年度から継続的に担任と算数少人数担当での連携を実施してきたことが実を結んだと考えられる。意欲を低下させないための指導を実践した。</p> <p>【課題】割合・単位数あたりの単元の定着が積み重なっていかなかった。また、普段の授業からどの単元においても計算ミスが多かった。基本的な計算については6学年だからといって侮ることなく、取り組ませる必要がある。</p>			<p>○算数科では、5年生までの既習事項の確実な定着を図り中学校への学習につなげられるようにする。特に、四則計算や分数や割合の学習について取り組ませる。</p> <p>○国語科については、語彙の数を増やし、正しく文章を読んだり書いたりできるようにする。</p>		<p>○朝学習や業間学習の時間、算数の授業の帯学習として、6年間の既習事項から理解度の低い内容を課題として取りあげ、プリントやドリルパーク等を活用して取り組ませる。</p> <p>○授業中やよむYOMUワークシートの取組、読書の時間の取組、読書の時間の活用をするなど、わからない言葉やすぐに調べ理解する習慣をつけさせる。</p> <p>○自主学習等で様々な分野の知識を知り、語彙を増やす。</p>	